

平成29年度第2回 倫理審査委員会

平成29年9月11日

受付番号29-03

申請者	呼吸器内科医長	梅津 貴史
課題名	「食欲不振を呈する進行肺がん患者に対する無作為第Ⅱ相試験」	
研究の概要	<p>食欲不振を呈する進行肺がん患者を対象に、異なる2つの用量用法のステロイド治療の有効性及び安全性をランダム化第Ⅱ相比較試験にて評価する。</p>	
判定	条件付承認	

受付番号29-04

申請者	北4病棟看護師	石橋 成都美
課題名	「認知症患者の転落を防止する体幹抑制帯の使用法の検討」	
研究の概要	<p>身体抑制は倫理的な問題がある為、身体抑制ゼロへの取り組みを目指すことが求められる。病棟では、認知症症状のある患者に対して、観察しやすい病室の調整やベッドの配置、転倒・転落予防としてベッド柵や離床センサー使用の検討など安全な環境を整えているが、安全確保が困難である場合、やむを得ず体幹抑制帯による体幹抑制を行うことがある。そこで、看護師自らが体幹抑制を経験することで患者の安全を守る効果的な体幹抑制方法を検討する。</p>	
判定	条件付承認	

受付番号 29-05

申請者	北5病棟看護師	須永 雅子
課題名	「呼吸器内科病棟でのせん妄の発症要因の特徴 ～ICDSCをもとに現状を把握する～」	
研究の概要	<p>呼吸器疾患患者は高齢者が多く、症状の悪化に対する様々な処置や日常生活の制限、環境の変化などにより、不眠や昼夜逆転などの睡眠覚醒リズム障害、精神運動興奮、幻覚や錯乱などの知覚障害といった、せん妄発症の誘発因子を多く抱えている。先行研究からも酸素投与を受けている患者はせん妄を発症しやすいという結果が明らかになっている。</p> <p>しかし、呼吸器内科病棟であるA病棟のせん妄発症患者を観察したところ、酸素投与の有無に関わらずせん妄が発症しているため、せん妄発症要因の特徴を把握することでせん妄発症予防の早期介入ができ、看護師のリスクマネジメントが可能になるのではないかと考え、呼吸器内科病棟でのせん妄の発症要因の特徴をICDSC評価基準を用いて明らかにする。</p>	
判定	不承認	

受付番号 29-06

申請者	西1病棟看護師	堀江 好美
課題名	「看護師による患者の自己注射自立の判断基準に影響を与える要因」	
研究の概要	<p>患者及び家族への自己注射指導を行う際、1対1での対面形式で行い指導時間は看護師に委ねられている。指導は既成のパンフレットを使用して作成したチェックリストをもとに行っているが、既成のパンフレットは作成元により内容にばらつきがあり、チェックリストも表現が曖昧で自己注射自立の判断基準が不明確である。そのため、一度自立と判断した患者が再指導とならないよう、看護師の自己注射自立の判断基準の統一が必要であると考え、自己注射自立の判断に影響を与える要因を明らかにする。</p>	
判定	条件付承認	

受付番号 29-07

申請者	北1病棟看護師	豊田 みどり
課題名	「重症心身障害児(者)のポジショニングについての学習方法の検討 ～手順書や写真・デモンストレーションを活用して～」	
研究の概要	<p>重症心身障害児(者)は、変形・拘縮、更に、様々な運動機能障害を有し、日常生活の全てを他者に委ねなければならない状況にあるため、身体を除圧、変形や拘縮予防、呼吸の維持・促進などを目的に適したポジションを提供することが重要となる。患者のポジショニングに関わる職種は、看護師・療養介助員・業務技術員・保育士と教育背景が異なる職種であり、患者個々に適したポジショニングを提供できていない現状がある。患者に関わる全ての職種が安全に留意し、安楽なケアの提供をするために技術を統一する必要があると考え、職種の壁を越えて、効果的な学習方法の検討を行う。</p>	
判定	条件付承認	

受付番号 29-08

申請者	副看護師長	土田 桂子
課題名	「ターミナル期イレオストミー保有患者の長期療養における栄養管理の一例」	
研究の概要	<p>上行結腸癌で、入院検査で結核に罹患していると診断された患者に対し一時的なストーマを増設した結果、ストーマ開口部の詰まりで便の流れが阻害されるなど、栄養管理の必要性が生じた。患者は日を追って全身状態が悪化し、癌の根治が困難になっていった。本症例の看護ケアを振り返り、今後のケア介入やNSTチームの支援について検討する。</p>	
判定	承認	